

37:1 これによって私の心はおののき、その所からとびのく。

37:2 しかと聞け。その御声の荒れ狂うのを。その御口から出るとどろきを。

37:3 神はそのいはずまを全天の下、まっすぐに進ませる。それを地の果て果てまでも。

37:4 そのあとでかみなりが鳴りとどろく。神はそのいかめしい声で雷鳴をとどろかせ、その声の聞こえるときも、いはずまを引き止めない。

37:5 神は、御声で驚くほどに雷鳴をとどろかせ、私たちの知りえない大きなことをされる。

37:6 神は雪に向かって、地に降れ、と命じ、夕立に、激しい大雨に命じる。

37:7 神はすべての人の手を封じ込める。神の造った人間が知るために。

37:8 獣は巢にもぐり、ほら穴にうづくまる。

37:9 つむじ風は天の室から吹き、寒さは北から来る。

37:10 神の息によって氷が張り、広い水が凍りつく。

37:11 神は濃い雲に水気を負わせ、雲が、そのいはずまをまき散らす。

37:12 これは神の指図によって巡り回り、命じられるままに世界の地の面で事を行なう。

37:13 神がこれを起こさせるのは、懲らしめのため、あるいは、ご自身の地のため、あるいは、恵みを施すためである。

ヨブが悪いと決めつけ、また論理に不整合（ときおり因果応報）があるエリフですが、他の友人たちと違っている点があります。それは神を人間の価値判断に適合して「このようになさるはずだ」と見るのではなく、人間の価値を超えた絶対者であると見ている点です。

ですから時には人間には理解不能であったり、理不尽に感じたりすることがあるのです。そしてそのエリフの発言は少なからず、後のヨブの悟りに影響を与えたと考えられます。

ここにあるように、自然の力つまりその猛威と恵からも神の偉大さを思いましよう。人間は弱く災害さえも予知できません。弱さを認めて主の主権の前にひれ伏しましよう。そして恵として祝福をいただきましよう。

愛の満たしなど)

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、

